

診療最前線

呼吸器内科

呼吸器内科は、咳^{がいき}嗽^{せう}・喀^か痰^{たん}など自覚症状がある方、あるいは検診で胸部画像所見等に異常が認められた方の診断・治療を行います。当科で取り扱う主な疾患をご紹介します。

■呼吸器感染症

ウイルス性・細菌性・真菌性肺炎など、微生物の感染により発熱、咳、喀痰、呼吸困難等が起こる疾患です。胸部画像検査・血液検査・喀痰検査を行い原因を特定します。これらの検査で原因特定が困難な場合は、気管支鏡検査を行うこともあります。治療は抗菌薬投与が主体となります。

■肺がん

肺がんだけでなく、他臓器からの転移性肺腫瘍によって呼吸器症状が起こっている場合、原疾患を診療している主治医の依頼で当科が介入することがあり



気管支鏡検査

ます。胸部画像でがんを疑った場合、気管支鏡検査で腫瘍組織生検を行います。現在、使用する抗がん剤を決定するために、組織採取をして遺伝子検査すること（がん細胞の性質を調べること）がとても重要とされています。これらの検査を行っても診断がつかない場合は、CT下生検・外科的肺生検を行うこともあります。信州大学呼吸器外科の医師が週2回診療を行っていますので、当院で手術を受け

ることも可能です。

放射線療法も外科的治療と同じく局所のみに行う治療ですが、脳や骨への転移があり、その部分だけ病勢を抑えたい場合に行います。放射線治療が必要な場合は、他施設への紹介も行っています。

初めて抗がん剤を投与する場合は、入院して経過を見ます。大きな問題がなければ、その後の治療は外来通院で行うことが可能です。抗がん剤治療は専用の外来化学療法室で行います。食事摂取困難やリハビリテー



外来化学療法室

ション、介護申請の方法など、患者さんの不安・心配はいろいろあります。当科では、多職種による医療チーム「がんサポートセンター」と連携し、がん患者さんだけでなくそのご家族も含めたサポートを、様々な方向から行います。

■COPD

喫煙者や粉塵暴露歴のある方に発症し、労作時呼吸困難、咳、喀痰等を訴えて来院することが多い疾患です。胸部画像検査、肺機能検査、6分間歩行試験等を行って診断します。6分間歩行試験は、6分間ご本人のペースで歩行していただき、その間の血中酸素濃度の変化や歩行距離を測るものです。重症度判定や治療方針決定、治療効果判定に有用です。

治療は気管支拡張剤吸入療法に加え、リハビリテーションの有効性がここ最近注目されています。COPDの患者さんは、日常生活の活動度を下げないことが寿命の延長につながります。また、栄養管理、予防接種等の

感染症予防も重要です。
呼吸状態が悪くなった場合には、在宅酸素療法や非侵襲的陽圧換気療法（NIPPV）を導入します。



呼吸機能検査

■気管支喘息

発作的な咳嗽や呼吸困難、喘鳴等を訴え受診される方が多い疾患です。診断として、喀痰中の好酸球増多や、気管支拡張薬吸入後の呼吸機能改善を確認することが大切です。COPDとの区別が難しく、またCOPDと一緒に起こることも多いため、

初診時にできるだけの検査を行って診断します。好酸球性副鼻腔炎等、耳鼻咽喉科領域の疾患を併発することも多いため、耳鼻咽喉科への紹介も行っています。

治療はステロイド吸入療法が主体となります。気管支拡張薬定時吸入やロイコトイエン拮抗薬内服等も有用です。重症例では抗IGE抗体療法も行います。発作が治まっても通院を中断せず、治療を継続していくことがとても大切です。

■間質性肺炎

肺が線維化し、肺活量が低下する疾患です。咳嗽や労作時呼吸困難を自覚します。膠原病に伴う場合や薬剤の副作用等、原因が特定できる場合と、できない場合（特発性間質性肺炎）があります。胸部CT検査、血液検査で疑いがある場合、治療方針決定のため、気管支鏡検査や外科的肺生検の施行を検討します。難治性であることが多く、若年者の場合は、呼吸機能の悪化が急速であれば外科的肺生検を行って確定診断したうえで、

肺移植を行うことがあります。最近では特発性肺線維症に対する抗線維化剤の使用ができるようになってきたため、CT検査や気管支鏡検査、外科的肺生検などの検査による確定診断が一層必要となっています。

■睡眠時無呼吸症候群

生活習慣病と密接な関係をもつ疾患です。睡眠時に上気道閉塞を起こすため、有効な呼吸ができずに眠りが浅くなり、日中に眠気等を起こす疾患です。放置すると心臓や肺に負担がかかり、脳梗塞や心筋梗塞を引き起こす可能性があります。当院では、簡易睡眠検査は入院でも自宅でも可能です。また、ポリソムノグラフィー検査による精密検査で確定診断します。重症であればCPAP（持続陽圧換気療法）を行います。



簡易睡眠検査
(装置装着時)

以上、代表的な疾患をあげましたが、これら以外にも様々な疾患を取り扱っています。どんな疾患であれ、肺の病気に對しては、まず禁煙が必要です。禁煙外来も行っていますので、是非ご相談いただきたいと思います。

呼吸器症状でお困りの方は、
当科を受診してみてください。

